

Opening Event 9.13sun

出品作家、葛本康彰・林直による アーティスト・トーク

展示作品や自身の作品の制作意図について語ります。

日時：9月13日（日）14:00～15:15

場所：AIR 南山城村“青い家”

参加費：無料



harmony 卯

村で暮らす7人のおばちゃん「harmony 卯」がランチを担当します。
村の猟師さんが仕留めた鹿を使った「シカライス」と
村野菜たっぷりの「やさいスープ」でおもてなし。
お楽しみにお越しくださいませ。

※材料がなくなり次第終了いたします。
※写真はイメージです。



アクセス

◎原則として「車」でのご来場をお願いします。

AIR南山城村“青い家”には駐車場はありません。
必ず本館前の駐車場をご利用ください。

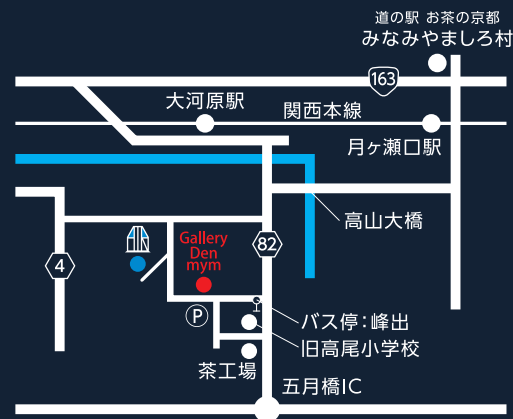
駐車場はギャラリー本館前にございます。そちらをご利用ください。

■お車でお越しの場合

- 大阪・奈良方面より：369号線→4号線、途中左折して82号線
- 京都・三重方面より：163号線→82号線
- 名阪国道より：名阪国道五月橋IC→4号線→82号線

■公共機関でお越しの場合

- 大阪方面より
加茂駅（JR大和路快速）で乗り換え、月ヶ瀬口駅（関西本線）下車
- 京都方面より
木津駅（JRみやこ路快速）で乗り換え、加茂駅から同上



高山大河原線村営バスをご利用ください。

月ヶ瀬口駅で下車してください。

行き
月ヶ瀬口駅前発（所要時間約20分）
10:00、13:15、15:45
峰出で下車してください。

帰り
峰出發（所要時間約20分）
17:19、18:19
月ヶ瀬口駅前下車してください。

Gallery Den mym

ギャラリーデン南山城村

主催／Gallery Den mym

後援／南山城村

京都府相楽郡南山城村高尾下廣見35 TEL 0743-94-0012 定休日：水・木曜日

E-mail: gdmym@nifty.com URL: galleryden-mym.com



Gallery Den mym

林直展

きおくの記録

Tadashi Hayashi



AIR 南山城村

葛本 康彰展

人間と空気 human and air
(life in the bottom of the blue air)

Yasuaki Kudzumoto

2020.9.13sun～9.26sat

12:00～17:00 初日のみ12:30～

毎週 水・木曜日は、休廊日とさせていただきます。

Gallery Den mym

ギャラリーデン南山城村

AIR 南山城村
Artist In Residence 青い家



林直

Tadashi Hayashi

PROFILE

1967 京都府生まれ。
1990 大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業

■主な作品発表

- 1998 個展「いつみきとてか」(コニカプラザ/東京)
- 個展「いつみきとてか」(コニカプラザ/札幌)
- 1999 個展「いつみきとてか」(コニカプラザ/大阪)
- 2000 企画展「新鋭展 それぞれの MAHOROBA」(奈良市写真美術館/奈良)
- 2006 個展「いつみきとてか…その後」(prinz/京都)
- 2007 個展「いつみきとてか…その後」(ぎやらりーきょうばて/奈良)
- 2008 個展「みつめる写真館」(Port Gallery T/大阪)
- 2015 個展「みつめる写真館」(ブルームギャラリー/大阪)
- 個展「みつめる写真館」(ギャラリー猫亀屋)
- 個展「みつめる写真館」(247 フォトグラフィ/ルーニイ)
- 2017 個展「きおくの記録」(ブルームギャラリー/大阪)
- 2010~2018 木津川アート 全回出品参加

■受賞

2018 木津川アート賞

■著作

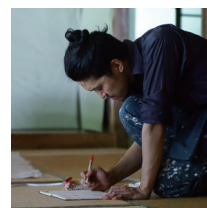
写真集「みつめる写真館」(冬青社 刊)

きおくの記録

視覚情報である写真は、当然のことながら見えるものを伝達します。ところが写真を見ていると、写っている人の声を思い出すことや、ものに触れたときの手触り、前後のでき事が頭に浮かんでくることがあります。ほんらい写っていないはずの事がらを感じてしまうのは、写真から見える情報が、私たちの過去の体験と結びつき、感覚として呼び起こされるからです。

多くの芸術は、その手法でできる直接的な表現を使い、間接的な事がらを、いかに感じさせられるかを目指していると言えます。基本的に平面媒体という性質から、撮影者は紙であることを感じさせないよう目指してきました。昨今のデジタル化により、その舞台は紙よりモニターでの割合が増え、鑑賞者の眼は知らず知らずのうちに、モニターの表現にもリアリティを求めるようになりました。今後、画質がより高くなることで、より拍車がかかっていくことでしょう。しかし私自身は紙の上で表現される写真が、しっかりと合っていて、その物質感や実態を必要と感じています。

これらの作品の題材は、私の人間性の素となってきた物事です。極端に個人的な題材ではありますが、写真によって人々の記憶に、どのようにリンクする作品となるのかを探っていこうと思います。



葛本 康彰

Yasuaki Kudzumoto

PROFILE

1988 奈良県生まれ。

■主な活動

- 2018 「葛本コレクション」(galerie16/京都)
- 個展「故郷と現象 A hometown and phenomenon (the preset world is here)」(不二画廊/奈良)
- 2019 「藝文京展 EX ~つなぐ~」(京都芸術センター/京都)
- 個展「移動と系 migration and system (as a thing with the fluidity)」(Space31/兵庫)
- 「さとやま - ギャラリー」(Gallery OUT of PLACE NARA/奈良)
- やまあそび light 唄と田植え「うたうたうたうえ」企画(同志社大学経済学部里山きゃんぱす/奈良)
- 「Aspects of light」(成安造形大学【キャンパスが美術館】/滋賀)
- 「学園前アートフェスタ 2019」(丹羽家住宅/奈良)
- 「ホスピタルアート in ギャラリー II」(大阪府立江之子島文化芸術創造センター/大阪)
- やまあそび vol.4 野外絵画作品展「絵描きが山に行く理由」企画(同志社大学経済学部里山きゃんぱす/奈良)
- 「小さいわたしたち」(+1art/大阪)
- 2020 「Kyoto Art for Tomorrow 2020 一京都府新鋭選抜展一」(京都文化博物館/京都)

プロフィール画像 撮影：茶本 晃生/Photo：Chamoto Akio

人間と空気 human and air

(life in the bottom of the blue air)

10年くらい前に北海道を自転車で横断している時期がありました。その時通り掛った大雪山にある三国峠(標高1139m)という所で、眼下の一面に広がる樹海を目の当たりにしました。その向こうから自分がやって来たという達成感を感じたのも束の間、圧倒的な木々のスケールによって全身がじわじわと自然に対する畏怖のような感覚に満たされてゆきました。

そんな思い出もひとつの契機として、僕が作品制作を通して試みているのは“人間”と“自然”の関係性を捉え直すことです。例えば一滴の雨でさえ地球全体を巡る水の流れの一面面であるように、日常で当たり前に出会う自然現象は、元を辿れば自然の大きな秩序と繋がっています。僕の作品制作は、そうした自然現象と自分との間に素材を置くことで接点を生み、“自然の現象”と“人間の作為”の双方から素材にアプローチするものです。それは自然が内包している美しいパターンを可視化する行為でもあります。

「青い家」は脇道の小さな傾斜を下りた先、緑に囲まれて建っています。そこは人間の生活の名残と、そこにひっそりと忍び込んでくるような自然の気配とが交差する場所です。繰り返されてきた展示も人間の営みのひとつの様相として緩やかに自然と渡り合ってきたことでしょう。今回の展示ではそうした密やかな、或いは緩慢な気配に意識を向ける場を生み出したいと考えています。